

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(129号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一

●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



信仰: 宣教は何を伝えるのか

- 主のご降誕を心から感謝し、主の御名を心より褒め称えます。このクリスマス・シーズン、教会と皆さんの上に神の祝福が豊かにありますようにと心からお祈りいたします。
- この10年間、励まし、お交わりを頂いた地域教会の牧師、信徒たちの多くの参加を得て、開所10周年記念感謝会を持ちました。皆さんのご支援に心から感謝しています。
- そして、改めてこの10年を振り返る時、現在の宣教が難しくなった時代背景の中で、宣教の視点で考えると教の面では大きな成果を上げることができませんでした。
- しかし、神は地域教会としてこの10年間支えて下さり、あの3.11の大震災の際には国内外の教会や信徒をサポートとして繋いで下さいました。その支援活動を通して多くの被災者と出合わせ、数多くの奇跡的なことを経験させ、主の証人として立たせて下さった恵みを思い返しています。
- 私が大学時代の1960年代は、特別伝道集会や路傍伝道、地域への教会案内のチラシ配布で、多くの方が教会の諸集会に集まり、福音が伝えられ、求道者も決心者も与えられました。
- しかし、高度成長で物質的に豊かになるに従って、その傾向は下降し、1980年末期から1990年中期にわたるあの「オーム真理教事件」が、日本人の心に「宗教は恐ろしい」というイメージを決定的に刷り込みました。
- 物質的な豊かさが決して人間を幸せにしないということを経験し、「こころの時代」と言われながらも、日本人の心に求道の心は戻りませんでした。そして、社会の大きなひずみの中で様々な問題が増えています。
- 経済優先の社会構造が人間を人間として敬い、信頼して生きることよりも、他の人よりも少しでも抜き出ることが推奨され、「いじめ」や「パワハラ」からのちさえも軽視される重大な問題を生み出しています。
- それらが社会問題になると、政府は道徳教育の必要を声高に主張し、さらには明治維新への懐古主義や教育勅語まで引き出し、それが教育の場で成績として点数化され個人の心まで支配されることが危惧される道を歩もうとしています。
- ユダヤ教の一派に過ぎなかったキリスト教があの大迫害時代に急速に人々に受け入れられていった経過について、クリスチャン新聞で、吉田 隆師が「異教社会のキリスト—古代教会に学ぶ」で連載で解説しています。
- 時代は異なるとは言え、やはりクリスチャン一人一人がその与えられている生活や働きの中で、自分を伝えるのではなく、神の愛の中で本当にキリストに似る者を目指して生きることこそ、最大の宣教方法だということです。
- すべてのクリスチャンが、神の兄弟姉妹として信仰においてキリストに生き、愛において隣人に生きるという生きて働く信仰生活を互いに励まし合って歩み、人間の評価に振り回されず、それを誠実に実行し続けることが、キリストを伝える道だと示されている。 **良きクリスマス・シーズンを!**

先月の多くの恵みから

- ① 11/15に、宮城教会(大原阿津子師)で次年度の「3.11東日本大震災追悼記念会」準備委員会が開かれました。準備の大詰めとなりチラシも間もなくでき上がります。3/9に東松島コミュニティー・センターでメイン集会、3/11に女川のまちなか交流館で追悼記念集会在開催されます。今回は、久米小百合さんと向井かおりさんが奉仕して下さいます。
- ② 12/12に、今年も博多のニューライフ教会の姉妹3名が楽しい手芸の会のためにクリスマス・リース作成の奉仕をして下さることになりました。継続してのご奉仕に感謝です。

● <祈りの要請> 「石巻祈りの家」は満10年を経て、「残りの者」を心して新しい歩みを始めました。乞う、祈りの支援。

- ③ 川上直哉師による教会の枠を越えての「ゆるしについて」の学びに加えて、2019年の元旦礼拝も石巻栄光教会で合同で行うことが決まりました。新しい年の初め主にある兄弟姉妹と一緒に礼拝できることを感謝します。
- ④ 「百万人の福音」12月号の「教会津々浦々」欄に、この小さな「石巻祈りの家」が紹介されました。
- ⑤ 11/7に、売却することになった長野県の濱師夫人の実家の整理を依頼され、家財の多くは11/24にICCが開いたバザーに提供させて頂きました。会員がその準備と当日奉仕できました。濱 民夫師ご夫妻の健康のためにお祈り下さい。
- ⑥ 10/25に、コーラス「花」は地域の介護施設の要請で「歌の訪問」ができ、入居者と楽しい時間を過ごしました。
- ⑦ 11/10に、神保幸さんより3.11追悼記念会のために献金を捧げて頂きました。必要のためにお祈り下さい。
- ⑧ 11/12に、ICCCの黄家琦師のお母様が台湾より来られているというので教会に伺い、先生を石巻に送って下さったことに感謝を申し上げ、楽しい交わりをさせて頂きました。
- ⑨ 11/12、横浜のシャローム福音教会より「2019みことばカレンダー」を沢山捧げて頂き市内の教会にもお分できました。
- ⑩ 12/23のクリスマスは、今年も山城町教会で合同礼拝と祝会の恵みを一緒に加えて頂けることになりました。感謝!

今月も以下の課題を祈って頂けるようお願いいたします

- ① 今野かつ子さん/二平幸子さん/千葉真理子姉/Dei姉/新井李恵子姉の治療のために。
- ② 石巻地区の各教会の働きのために。地域より求道者が起こされるように。
- ③ 大平英秀さんのために
- ④ 九州・西日本・北海道の被災者のために。
- ⑤ 3.11東日本大震災追悼記念会の準備とそれに必要な経費が満たされるように。

群の定期集会

- 礼拝 (毎週日曜日) 10:00-11:30
- 祈り会 (毎週水曜日) 10:00-11:30
- 聖書を読む会(第1火曜日) 10:30-12:00
- ほっと・Time (第3火曜日) 10:30-12:00
- コーラス「花」(第2,4木曜日) 13:30-15:00
- 楽しい手芸 (第2,4月曜日) 10:00-12:00
- 学習支援 (地域の子どもの要望に応じて)

信仰を詠う

12月 梅花藻

ひとむかし、ふたむかしと重ね来て
 翁姥となるも 梅花藻恋うる
 まず頭、真っ白になり次はどこ
 こころが白くなりますように
 いまちよつとほんわか気分、気遣いと
 争いのない夢の 目覚めに



阿部 八重子

透き通った流れの中の水で真っ白い梅の花に似た小さな花、房の様な藻の様な葉の中にそよんでいます。夏の花です。その花の中にいるとわたしきれいになる様に生きかえります



10/15元僚浅井画伯逝去 頂いた絵と追悼展示会での絶筆作品 10/29雨天での馬っ山早天祈祷会 11/18D ean師家族と礼拝後 10/24 祈りに小澤師出席



10/30 古川の大川兄宅でハックルベリーを収穫後に、病院にお見舞い クリスマス・ツリーを完成し記念写真 山形より秋の味覚ラ・フランスが 11/11 希望の家でMIGIWA. LC



11/12 ICCCで黄師のお母様と 11/21 第7回川上師による学び会 11/15 宮城Cで3.11準備会 11/7 長野県のH師夫人の実家売却のため家財整理を依頼される。可愛いこけし発見

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在り

信仰の歩みの中で

「良心」はどのようにして

石巻祈りの家 阿部 一

昨年の地方紙「石巻かほく」に続いて、今年4月から石巻のもう一つの地方紙石巻日々新聞の依頼で、「潮音」欄に月1回恥ずかしくてエッセイとは言えない駄文を書いた。

その第3回目に「自分とは何者？～三人のわたし」という題で、神に見出されるまでの私の辛かった内面の戦いについて書いた。父親を戦争で亡くし、極貧の生活をせざるを得なかったが、母親から怒られたという記憶がない。3人の子供を食べさせるために、朝早くから夜遅くまで働いていた母親の生活を見て、この母親には迷惑を掛けられないという思いが小さい時から心にあった。母親から言われた「お天道様が見ているよ」という教えは確かに心にインプリントされていた。

人間はある行動を起こす時、「選択」をする。その選択の際に、自分に都合良いことを選択しようとする自分とそれに対して「それはまづいのではないか」と待ったを掛ける自分がある。そして、そのいずれかを選択して行動する。自分のやりたいことをやった後で、何か心に気まづいものがある場合がある。そして、人間として正しいものではなかったという思いが重くのしかかる。これが自分の言動に大きなブレーキを掛ける。この善悪を判断する良心とは何ものが小さい時からの私の疑問であった。その善悪の判断基準は、全てが外から教えられてきたものではないからである。

では、すべての人間には生まれながらにこの良心が与えられているものだろうか。私自身は、神は全ての人に「良心」を与えているとずっと信じその考えを持って相手に対処してきた。

40年近い教員生活や60年近い教会生活の中では、いくつもの人間関係のトラブルを経験してきた。私は、同僚に言わせれば、「王手に王手をかける」と言われるほど、不正に対しては厳しい。確かに、その経験の中にはいわゆる大変な人もいた。しかし、私の方から和解のための率直な話し合いを求め、その人々と改めて新たな良い人間関係を築いてきた。

学校では生徒たちのカウンセリングをし、同僚の相談にも乗っ

ていたことから、人間の心に関心を持ち、講習会でも学び、心理学の本もかなり読んだ。しかし、そんな中で、ある人の言動を長年観察してこの人は良心をもたないのではないかと本気で疑わざるを得ない人に初めて出会った。

最近「良心」を真っ正面から問題とする幾冊もの本が目につくようになった。京都の同志社大学では、「良心学研究センター」を立ち上げ、学問的に様々な角度から「良心」の研究が始まり、最近「良心学入門」という本も出版された。そのゼミ等は、インターネットでも見ることができる。さらに心理学者や精神病理学者が、「Without Conscience」の人達の事例研究や脳科学的な原因追及の本も次々と出ている。今までは犯罪者に多いといわれてきたが、現在では様々な程度の良心を欠く人たちが私たちの身近に1～3%といっていると報告されている。その判断は専門家によらなければならないことは言うまでもないから、私たちが安易に他人をそうだと断定することはしてはならない。

いわゆる問題行動を起こす人は、フロイド等の精神分析から小さい時に受けた肉体的および精神的な虐待などによるトラウマが原因であると言われてきた。だが、現在はこれでは説明できない「良心がない人」がおり、これらはカウンセリングや薬物による治療では改善できないといわれている。今までの分類からはみ出す人である。それらは、環境や生育の影響は少ないといわれ、その対処法は、その人に近づかないこと以外はないことで一致している。顕著なことは冷淡で共感性、責任感が欠如し、誇大な自己認識を持ち、良心の呵責がないから平然と他人を嘘や偽りでだまし、他人を支配して行くと言われていた。

「良心 (Conscience)」とは、con(共に)-science(知る)が語源で、そこには「良い」-「悪い」の価値判断が入っていないという。旧約聖書の英語版では「良心」は「struck」、「reproach (とがめる)」などが用いられ新

約で初めて「conscience」が出てくる。そしてその前に「きよい、正しい、弱い」などが付き、全ての人が「良心」を持っていることが当然のこととされている。

クリスチャンは他人を疑ったり差別しないで全ての人を受け入れる。しかし、現実にはこういう人がいることを認識しておかないと、教会はかき乱され、支配を生み、多くの被害者が出ることになる。聖書でも「福音に反することには特に注意し交際しないようにしなさい」と勧めている。そこにキリストの愛があるかどうかを決め手となるのではないだろうか。

